

調和体を書く(6)

締切り 六月二十四日(必着)

回作品の出し方

▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)

▼毛筆部 半紙に書いて下さい。(筆ペン可)

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

奥村憲照先生書

天災は
忘れたころに
やってくる
寅彦の語

◆書道のジャンルには、大別して「漢字」「かな」「漢字かな交じり書」の三つがあります。

◆現代日本の文章表現は全て漢字かな交じり書ですが、ここでは芸術的創作作品を指し、「調和体」「近代詩文」として書展の一部門を占めています。

◆読める書として人気を高めています。が、古典といわれるものがない故に書法はまだ確立しておらず、各団体で新和様・新書芸などのいろいろな呼称で研究が進められています。

◆今回のお手本は、前会長奥村憲照先生が(財)日本書道教育学会に關係していた頃の^{しんわよう}新和様のお手本です。本誌初登場です。

◆読めてかつ、書格の高い作品を目指して研究してまいりましょう。

〔読み〕

天災は忘れたころに
やってくる

寅彦の語

〔解説〕

●落款(署名・捺印)は作品の一部として「寅彦の語」の後にバランスよく収めて下さい。

●印のない方は、配置・サイズを考え赤ペンで□を書き入れて下さい。

一般部規定課題

締切り 6月24日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

我 身 愚 鈍 卑 事 勿

◎今月は楷書。楷書を学ぶことは一本一本の線、一つひとつの点の特長を覚え、その応用、組立てをする。文字の正しい形を知ることが大切です。

▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

我が身 愚鈍なればとて 卑下する事勿れ

おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕

人 道 一 日 怠 廢

すた(れる)

た	一	人
ち	日	道
ま	怠	は
ち	れ	
廢	ば	
れ		
る		

おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

▼教範・書範=楷書
▼師範=行草または草書

◆7月課題予告(行書)
疑を以て
疑を決すれば決
必ず当たらず

★我が身…(書体=楷書)
道元(二〇〇三三三)
鎌倉時代の曹洞宗の開祖
道元は、正しく仏道を歩めば誰でも
悟りに到達できると言っています。
いたずらに自分を卑下し、仏道修行
の妨げとならないように戒めています。
卑下し得るコンプレックスとはバネ
にかかる圧力のようなもので、このエ
ネルギ―源を起爆剤としたいものです。

◆7月課題予告(楷書)
器量によりて
荷をば持て
曾我物語

★人道は…(書体=行書)
二宮尊徳(二六七八六六)
江戸時代の農政家
人道には分度(ふんど)と推譲(すいじやう)があると説いて
います。分度は収入に合わせて計画的
に生活することで、推譲は農作物や商
売で得た金銭を将来への蓄えに残した
り他の人に分け与えることです。分度
も推譲も儉約に努め、勤勉に働くこと
を前提としています。

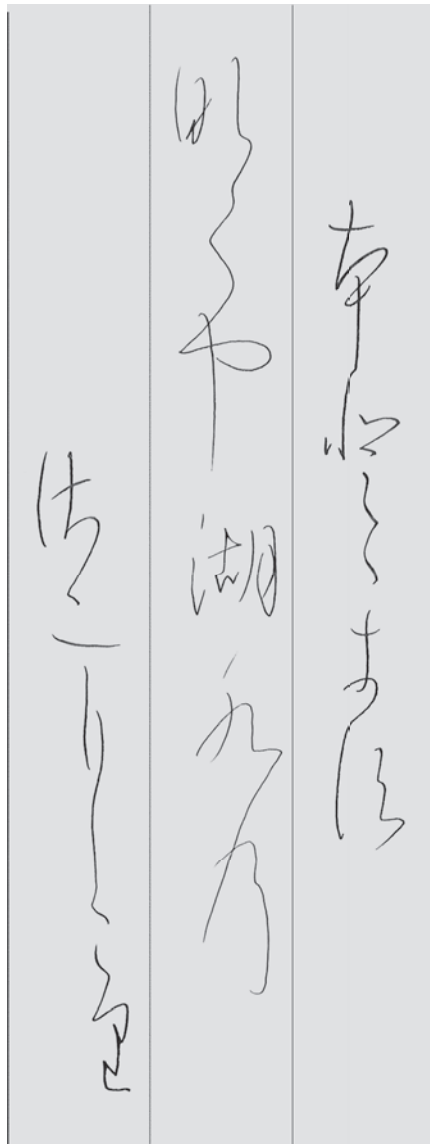
一般部かな課題

締切り 6月24日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

本登、支須那
時鳥鳴くや湖水のささ濁り
乃佐、耳こ里

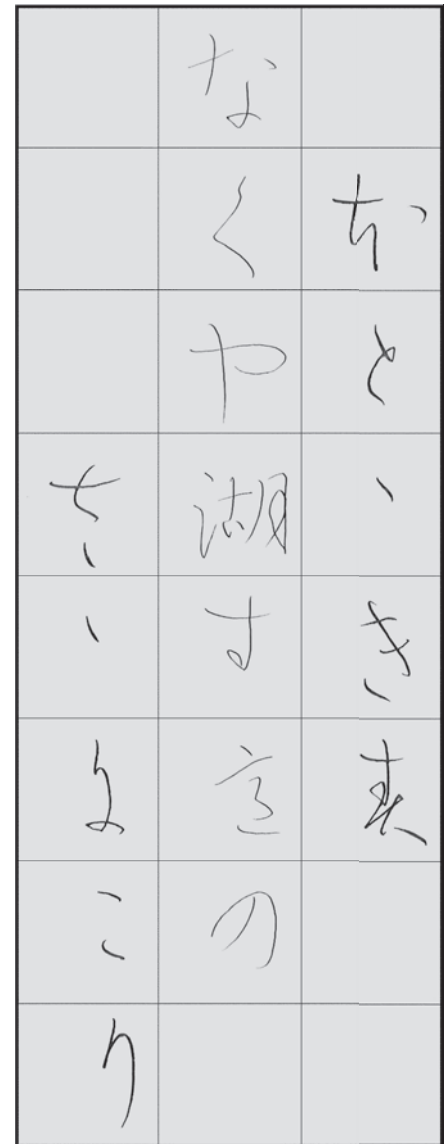


た 中 貴 光 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

本と、き春な
時鳥鳴くや湖水のささ濁り
寸意



た 中 貴 光 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆7月課題予告

行く雲をねてゐるや夏座敷
(志太野坡)

【解説】「さ」の字は、二画目と三画目の出だしを中心として揃えたと良い。「湖」の字は、「さんずい偏」と「月」は、下を揃えて、「古」は少し上に上げ、少し下を空けるとバランス良い。

登と 春す 那な 意い 耳に
時鳥鳴くや湖水のささ濁り
た田中貴光書

〔古筆参考〕

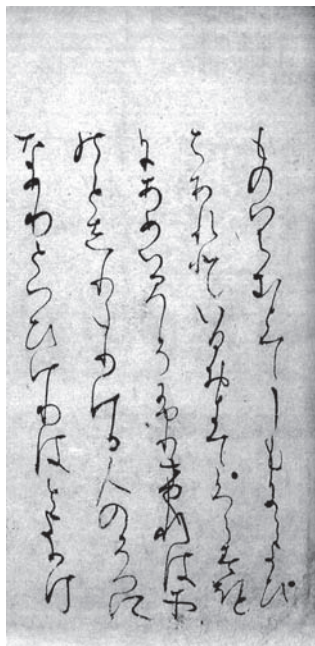
湖は晴天の日とは違って水は一面かすかに濁っている。たまたま時鳥が一声鋭い鳴き声で湖上を渡った。
【鑑賞】時刻はいつも定めがたい。大きな湖は濁りを帯びているほどだから、曇天が多い。一面朦朧としている。その大まかで鈍い景色とは対照的に、裂帛の鋭い時鳥の声が一瞬通過し、その後はまた薄暗い静寂に帰る。

【句解】五月雨のころであろう。琵琶湖は晴天の日とは違って水は一面かすかに濁っている。たまたま時鳥が一声鋭い鳴き声で湖上を渡った。

時鳥鳴くや湖水のささ濁り
(内藤丈草)

〔古筆参考〕

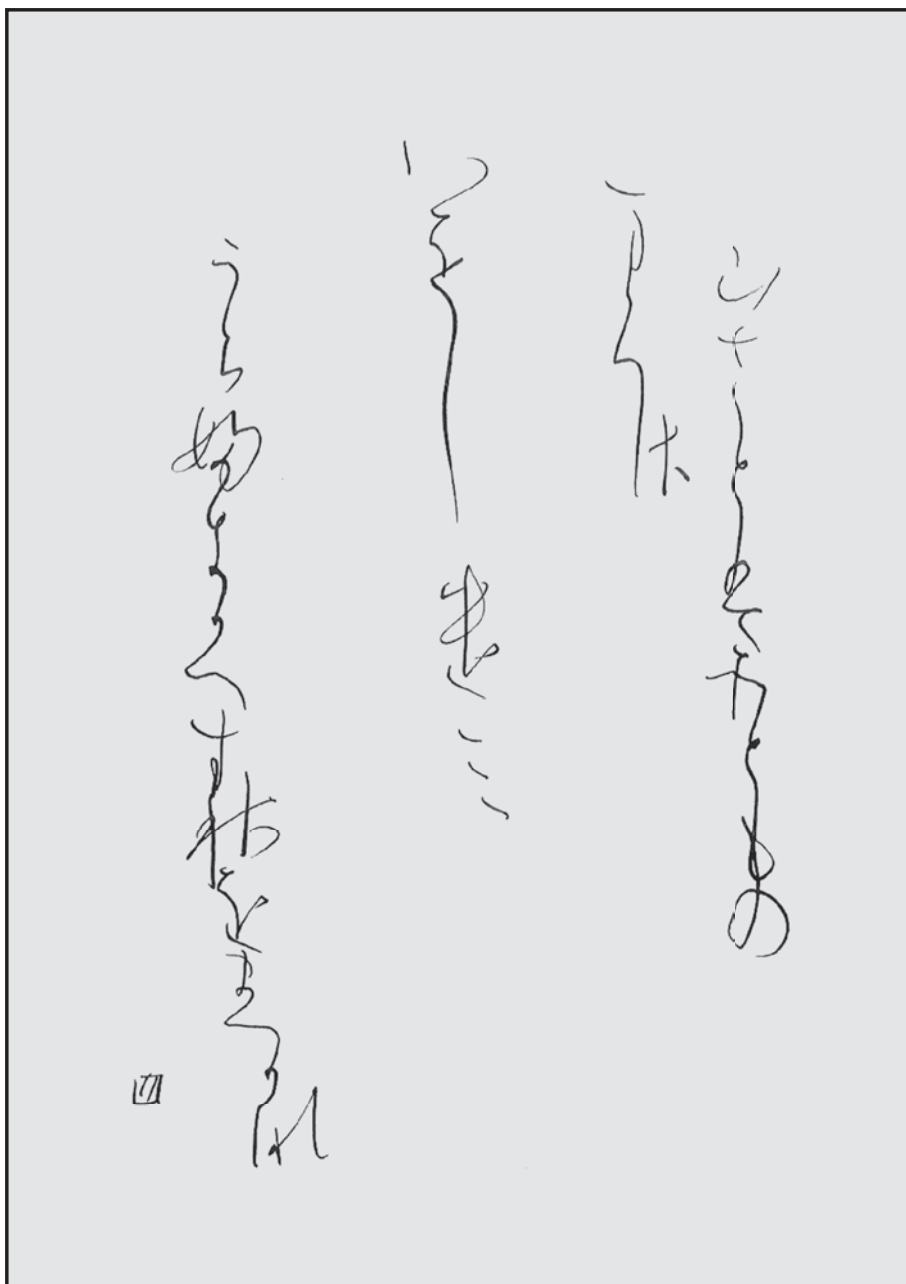
いち じょう せつ しょうしゅう
一条 摂政 集



ものいはむとて、しもにこよひ
 者登日支久春本
 はあれといひおきてくらすほど
 尔見布利希所
 に、あめいみじうふりければ、そ
 能志利多利
 のことしりたりける人の、うへに
 利可
 なめりといひければ、とよかげ

締切り 六月二十四日（必着）

築瀬舟香書

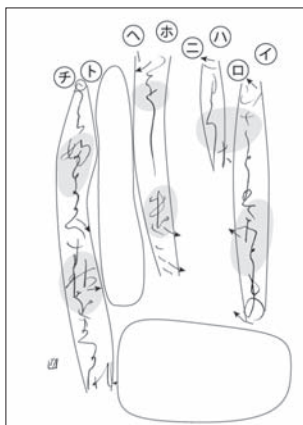


山里はそとものまきさ葉をしげみ
 裏吹きかへす秋を待つかな

〔歌意〕 山里では住居の周りの葛くずが
いっぱい葉を茂らせているので、そ
の葉を裏返す風の吹く秋を待つことだ
よ。

〔出典〕山家集（新潮日本古典集成）

〔解説〕



●
①と口、①と二、①とホ、①とへ、
①と子、①とへ、①と子、それぞれ
呼応。

● 行の粗密、密の動き大切。

●
↓
指向性、大切。

- ①の位置大切。

◆7月課題予告

花薄心あてにぞ分けてゆく
ほの見し道の跡しなければ

締切り 6月24日(必着)

お洒落^{しゃれ}なフォトスタンドを有難う。
新しい家にマッチして、とっても
よい雰囲気です。まだ慣れない事
ばかりで悪戦苦闘^{あくせんくどう}しています、
少し落ち着いたら招待^{わいとう}しますので
美味しい^{おいしい}ランチでも一緒に。

お洒落なフォトスタンドを有難う。
新〜家にマッチして、とっても
よい雰囲気です。まだ慣れない事
ばかりで悪戦苦闘〜しています、
サ〜落ち着いたら招待〜しますので
美味〜いランチでも一緒に。

※手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。
(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

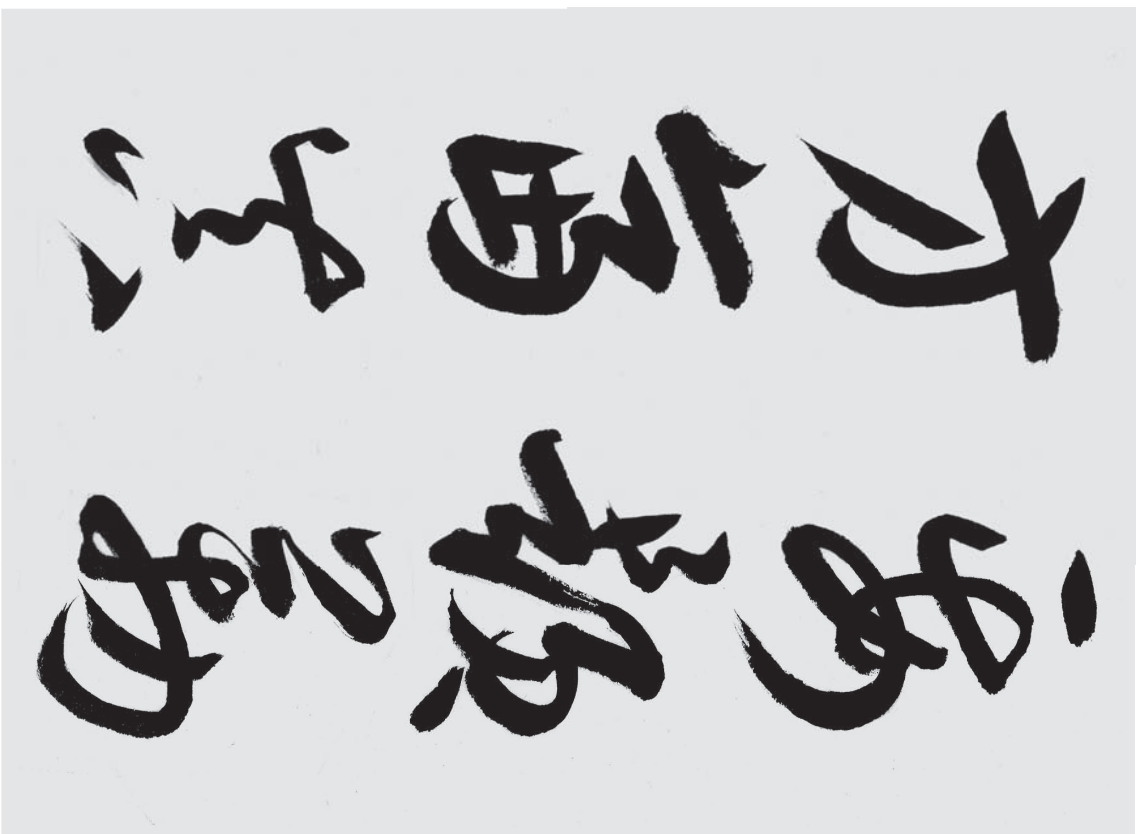
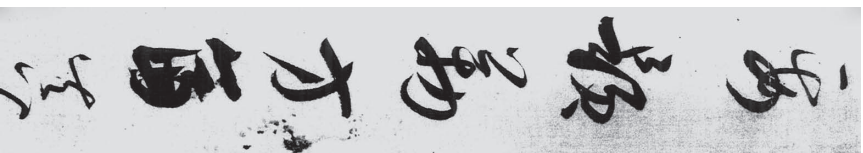
横 書 き 課 題

鮎釣りの解禁日は6月1日ごろで
漁では長良川の鵜飼が有名です。
京都府舞鶴市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

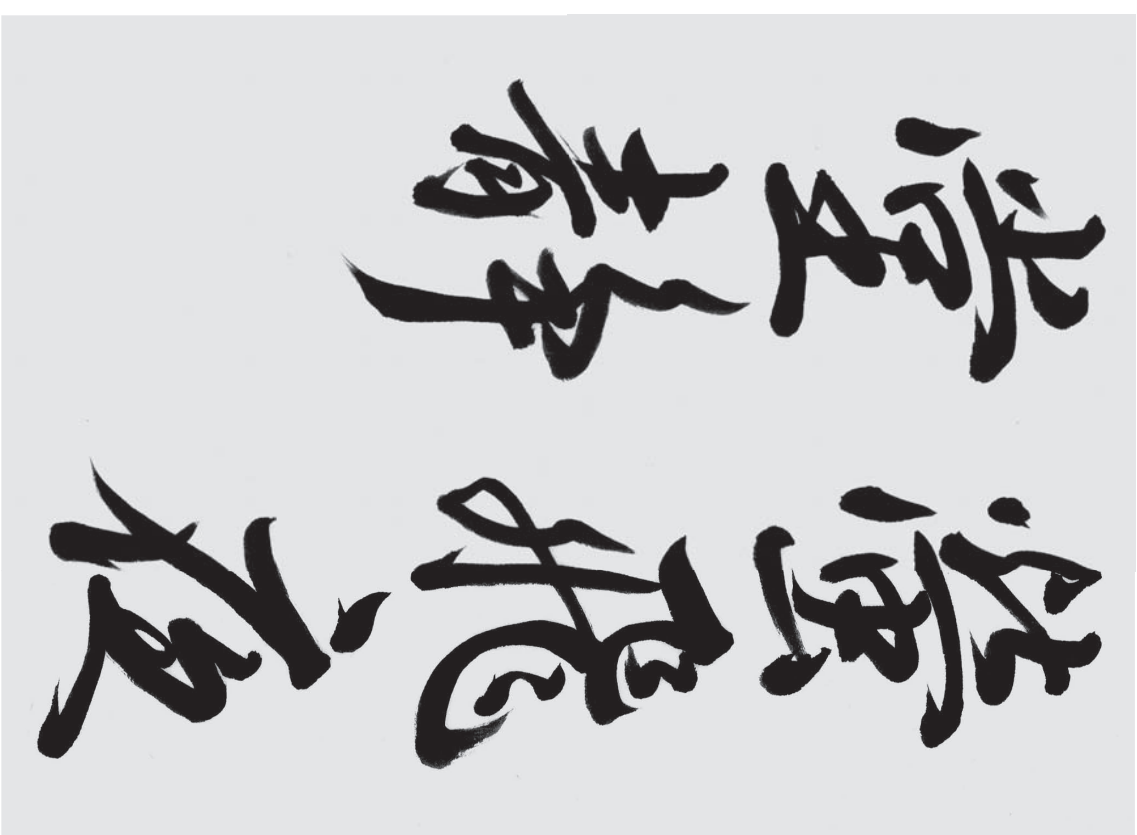
締切り 6月24日(必着)



〔出典〕 書譜（687） 〔筆者〕 孫過庭（648?～688?）
 〔読み〕 （行書を）要と（為す）。題勒方畱は、真

準初段から師範まで

奥村暢之 臨
 おくむたのぶゆき



新入から1級まで（行書）

須田一葉 書
 すただいちよう

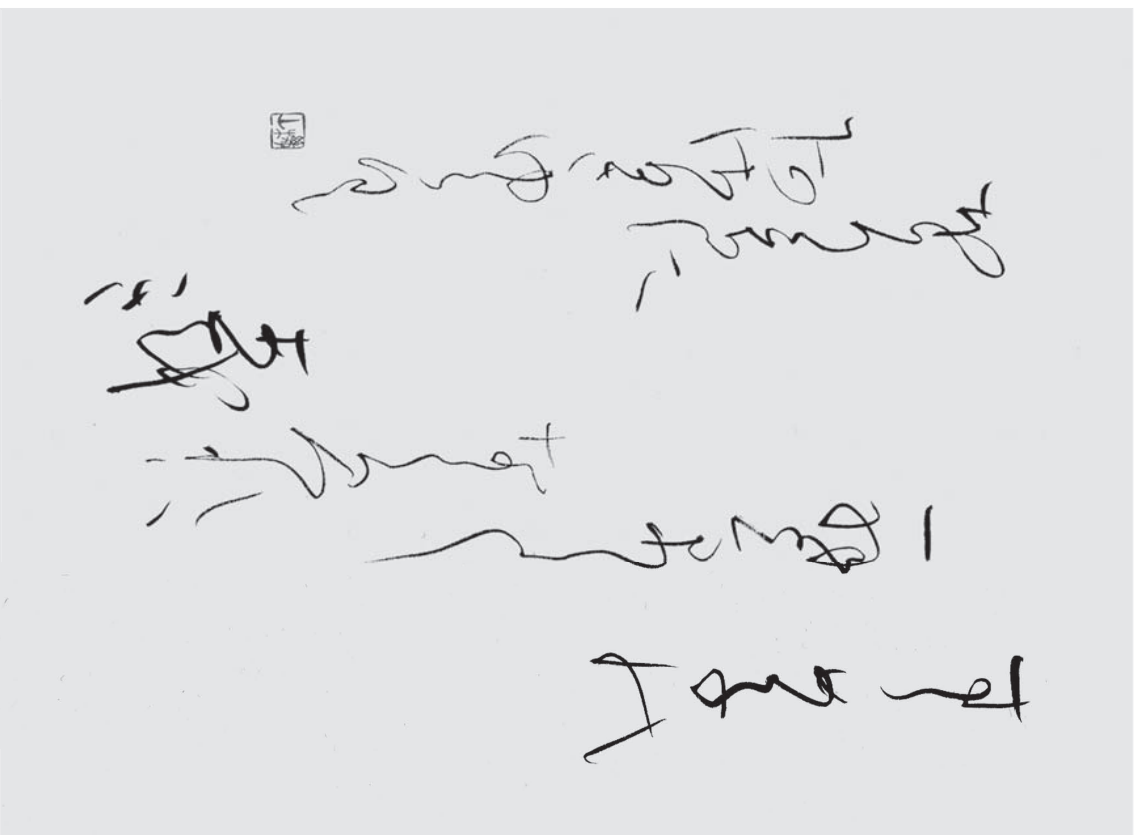
〔読み〕 堂とんで夜堂靜かなり
 〔大意〕 螢が飛び、夜の草庵は静かである。

一般部毛筆かな課題

締切り 6月24日(必着)

※検定試験三段コース以上を兼ねる。

すずめ^能子の一羽とまりて鳴く見れば
あそ^越き^{本音え}細枝^{阿佐}に朝日^具さゆらぐ



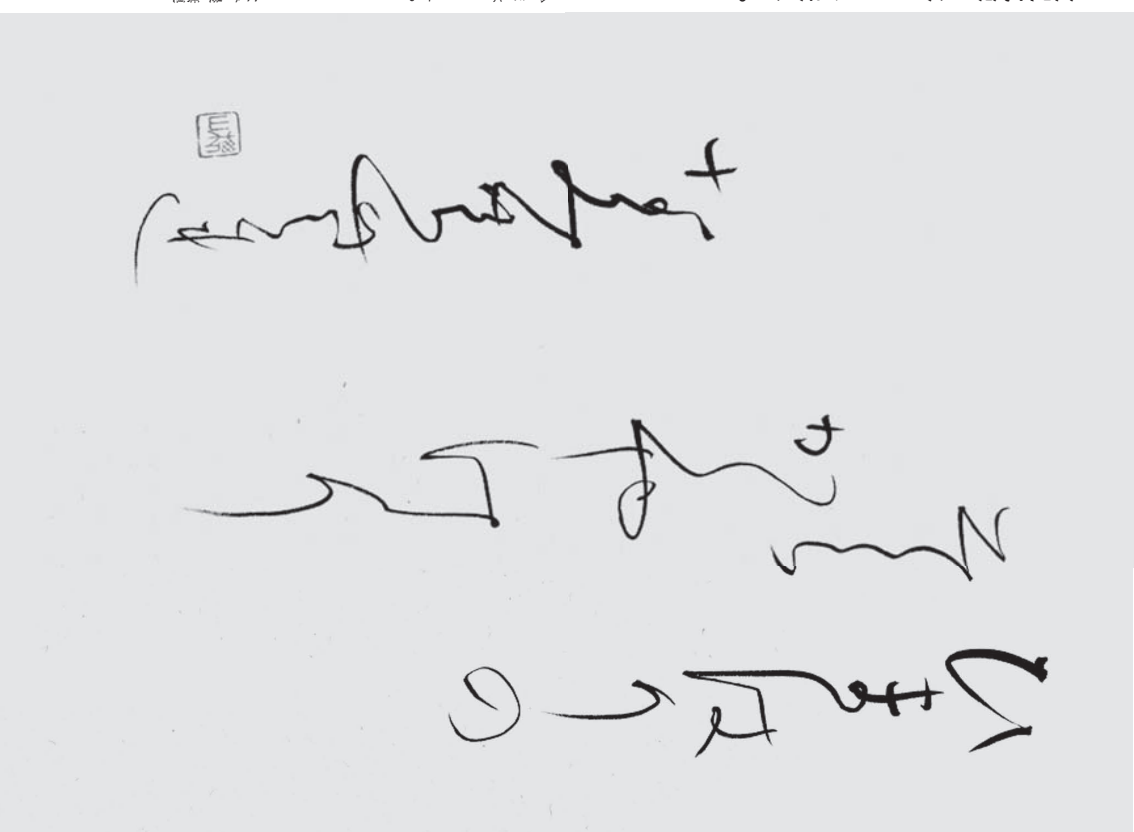
【出典】 若山牧水^{わかやまぼくすい}

【歌意】 雀の子が一羽とまって鳴くのを見ていると、青く細い枝に朝日がゆらゆらとゆらめいている。

準初段から師範まで

※検定試験1級コースを兼ねる。

■画課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。
ひまわり^{ひまわり}の空^{そら}がやけり波^{なみ}の群^{むね}無^む



【出典】 水原秋桜子^{みずはらしゅうおうし}

【句意】 海辺に咲く大向日葵。真夏の青空はまばゆいばかりである。沖から波が押しよせて来てはくずれている、の意。

新入から1級まで

浅井^{あさい}機山^{きざん}先生書

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 六月二十四日（必着）

半切（一二六cm×三五cm）

荻田蒼仙書



水底游魚真見性
樹頭語鳥小参禪
史蕭

〔大意〕水の中に遊泳する魚を見ては、もろもろの忘念を去って真の仏性を見窮める。木の上に鳴く鳥の声を聞くは、いささか禪の道を悟るに足る。

※初出品の方へ 支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〔条幅解説〕作品づくりに太細、大小、疎密、抑揚リズム、打楽器の書法、弦楽器の書法等いっぱいありますが、一つか二つに目的意識をもって枚数を重ねて下さい。劉先生曰く「筆が書いてくれるんだ」と。

お誕生日おめでとうございます
最近自分でもお母さんにとてもよく似てきたと思うようになりました うんと長生きして下さい
(ご自分の氏名)

・印で墨つぎしました。

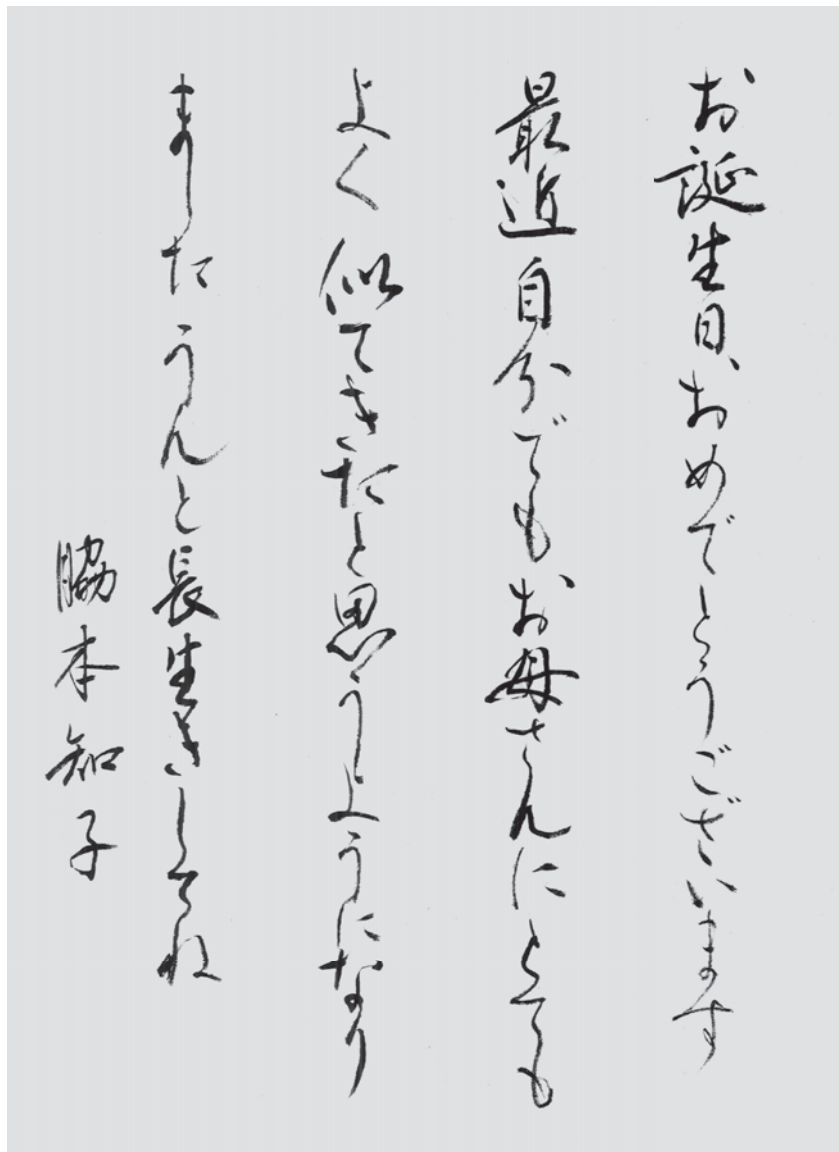
〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績（天位〜5等）は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

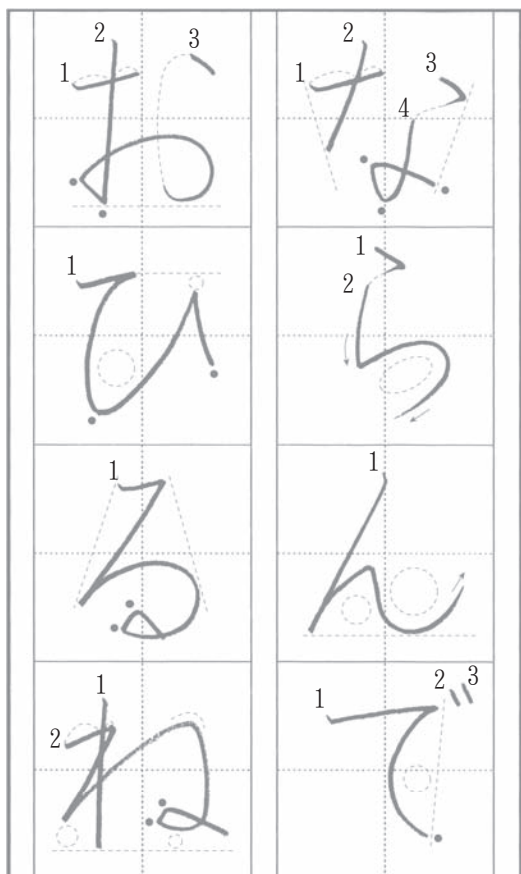
※検定試験三段コースを兼ねる。

半紙（334mm×240mm）

樋田玲華書

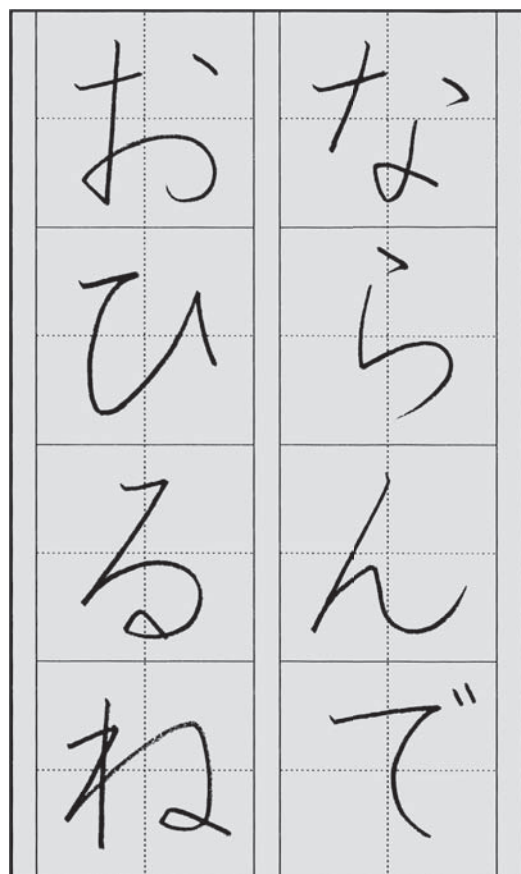


〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



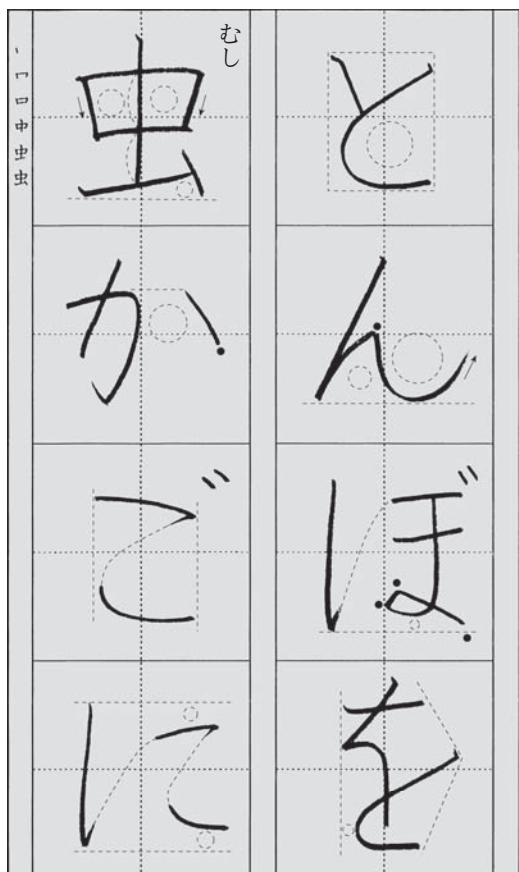
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



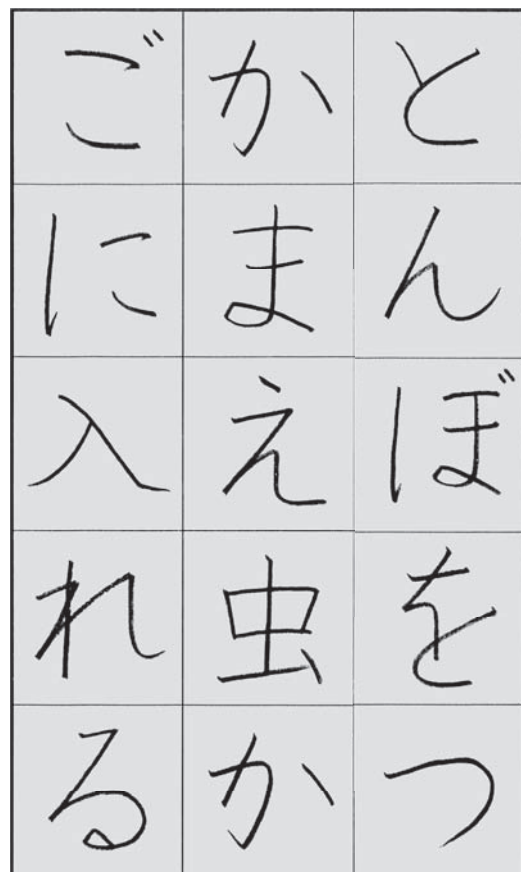
よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

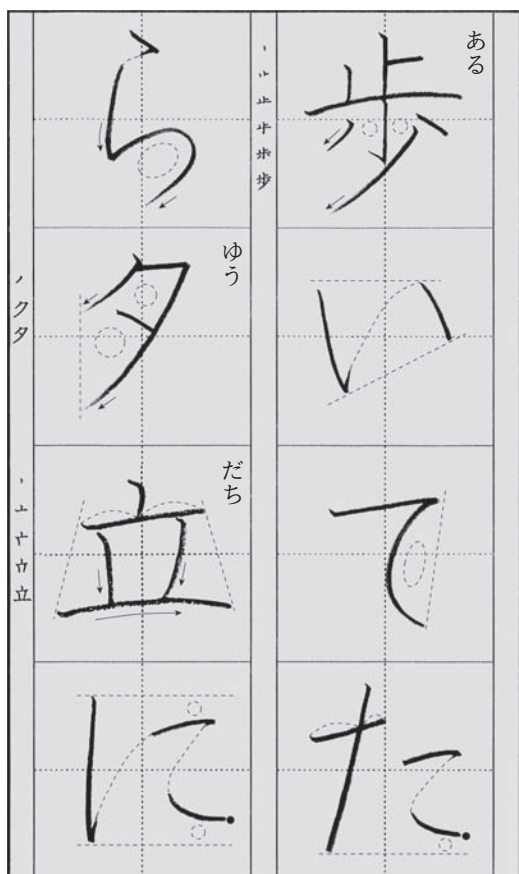
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

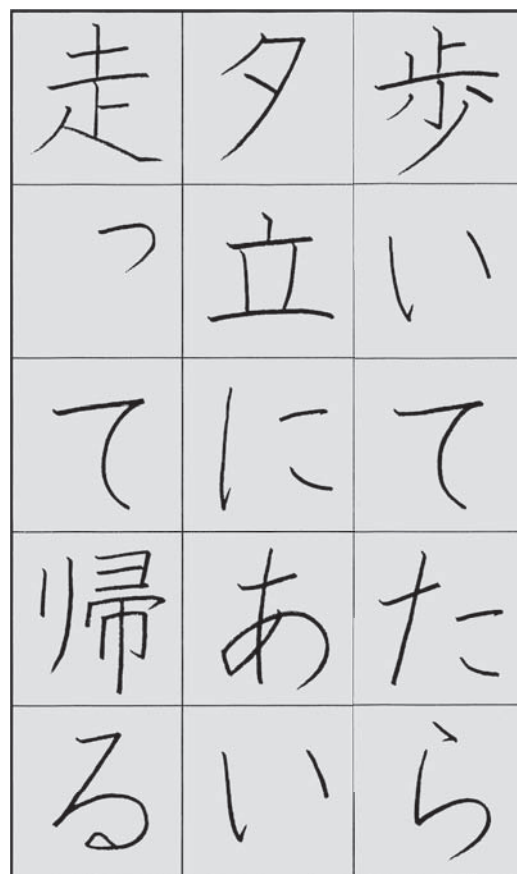
準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



新入1級

※夕立(ゆうだち) 単語としてこのように読みます。



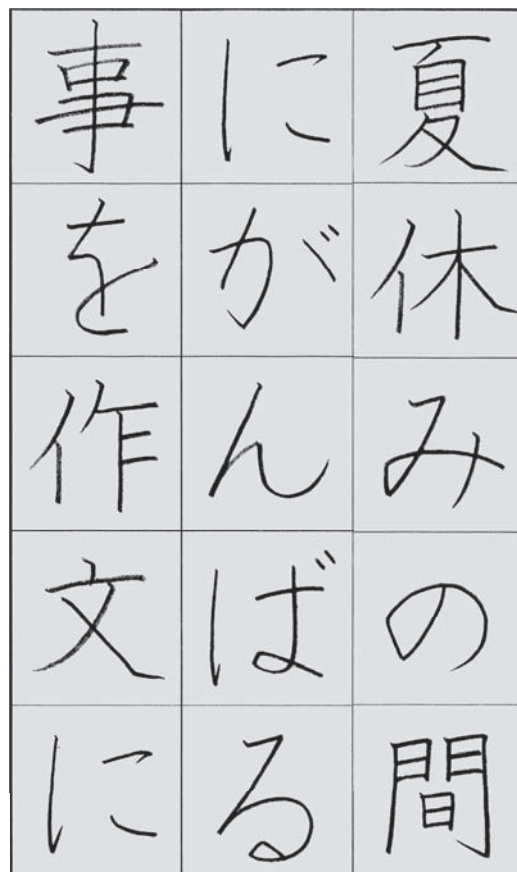
小二年

準初段以上



新入1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

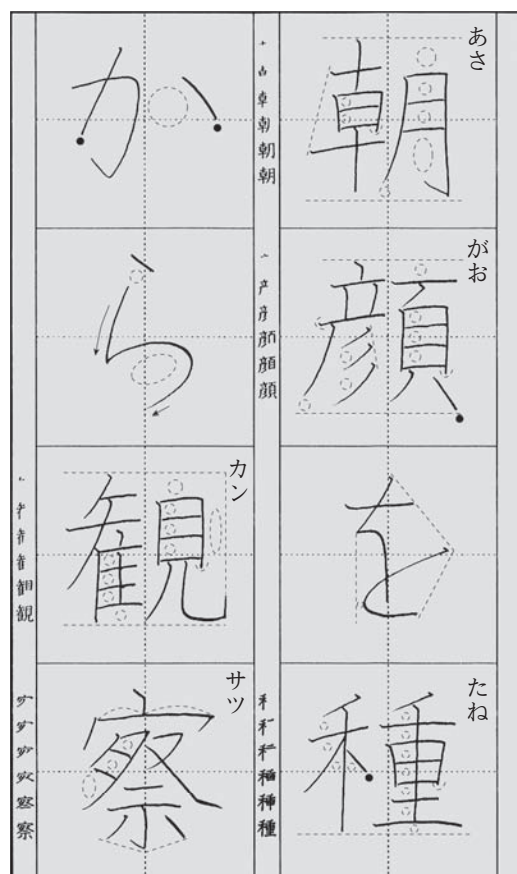


小三年

準初段以上

小四年

(全員)



新四年生は、左記により、全員この手本どおり8マス用紙で出書してください。

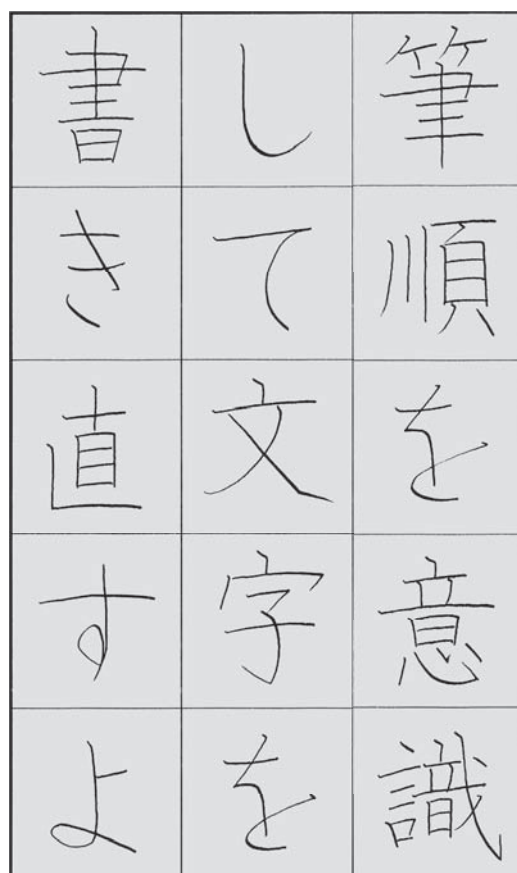
記

- *用具は自由ですがデスクペン、つけペンで書く人は、硬^{かた}くならず、のびやかに書く習慣をつけることが第一目的です。
- *六月締切り分までは、この方法が続けます。
- *ペン書きの人は早く慣れるよう、たくさん練習しましょう。
- *七月締切り分からは、準初段以上は従来どおり15マス用紙を使用してください。

〈用具〉自由(黒色に限る)

小五年

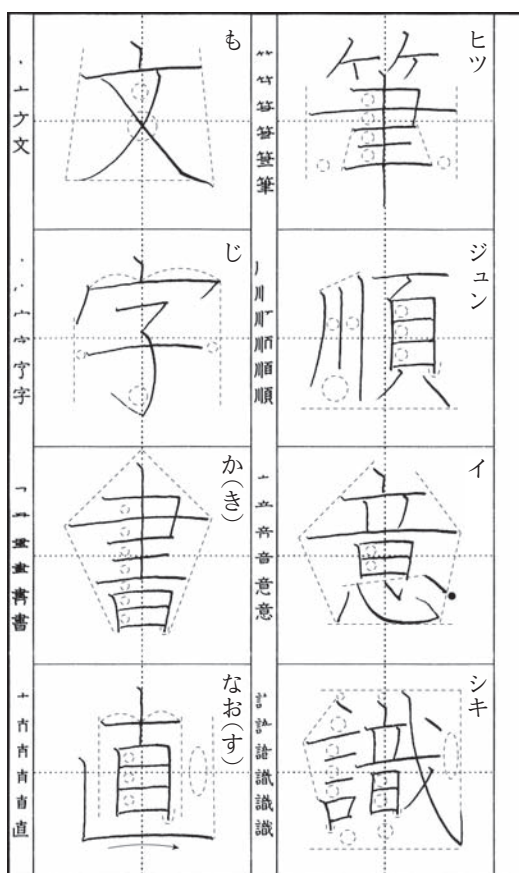
(全員)



※文字^{もじ}＝単語としてこのように読みます。

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

解説(よく見て習いましょう)



小四年以上 岡嶋桂川書

〈用具〉自由(黒色に限る)

ノイ内血血	血	ケツ	同	おな(じ)
シ江沙液液	液	エキ	射	い
ニ井刑型型型	型	がた	手	て
一ナ方友	友	とも	座	ザ

解説(よく見て習いましょう)

つ	血	同
し	液	じ
よ	型	射
の	も	手
友	い	座

小六年

(全員)

◎お手本はつけペン使用

比	の	節
較	使	電
し	用	前
ま	量	と
す	を	後

中二・三年

(楷書)

健	を	必
康	摂	要
な	取	な
体	し	栄
に	て	養

中一年

(楷書)

▼小三年以下の課題

おおす か そう りゅう 書
大須賀 桑 龍

進 ^{すす}	ゆ	葉 ^は	あ	カ
み	っ	の	じ	タ
ま	く	上 ^{うへ}	さ	ツ
す	り	を	い	ム
			の	リ
				が



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 6月24日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよい。

▼小四年以上の課題

ふく おか しゅう せん 書
福 岡 舟 泉

傘 ^{かさ}	続 ^{つづ}	当 ^{とう}	発 ^{はっ}	梅 ^{ばい}
を	き	分 ^{ぶん}	達 ^{たっ}	雨 ^う
忘 ^{わす}	ま	は	し	前 ^{ぜん}
れ	す	雨 ^{あめ}	て	線 ^{せん}
ず		降 ^ふ		が
に		り		
		が		

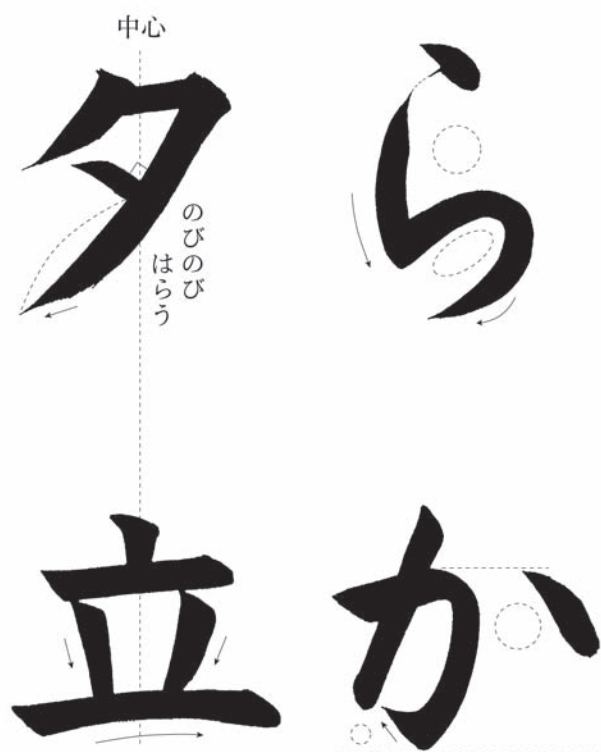


◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





小五 筆順

小三 作文

顔 筆 順
作 文 朝

小四 朝顔

小三・小五年

水野香竹書

小六／中二・三年
奥村暢之書

中三
比前後
較後

型血
液
小六

康
前
較
血
液
健

中一
な健
体康